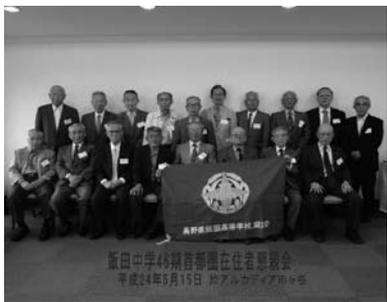


各期同期会の活動状況

■中46回

毎年「飯中46期首都圏在住者同期会」はアルカディア市ヶ谷で5月開催。今年の参加者は18名。一時20名を切った。この会も終了かとの声も出ていましたが、最近「たとえ2人になっても続けよう」という元気ある声が聞こえてきて、来年も5月15日と決めています。今年の参加者では



愛知県大府市在住の新井好夫君が、アメリカの豪華客船「LEGEND OF THE SEAS」の船旅を終えて前日横浜に入港、その足で馳せ参じてくれて土産話に花が咲きました。常連となっていた前同窓会長

萩本君は、まだ現役で働いているため急な飯田での用事で欠席、名古屋から皆勤の大原君が穴を埋めてくれていました。富山県の文化功労者山岸君は、当日多用で欠席となりましたが、日展・創元展出品のつど連絡をくれるので、見に行く者にとつては「小同級会」の基を作ってくれています。今年は故郷からの出席は得られませんでしたが、その代わり5年続いている故郷での交流会に田舎在住者の参加が増える期待を膨らませているところです。この案は全国

の滝を車で回っている元気者・桑原君あってこそその企画です。故郷の参加者が増えているのが楽しみを増しています。(木下昭明記)

■中47回

4月7日(土) 恒例の東京四七会を開催することとした。当番幹事(浜・宮澤・米山)が往復ハガキで出欠の返ってくるのを待った。

体調不良で欠席の仲間が増えて級友たちの老化が進んでいることを実感した。結局出席予定者33名と決まり当日を待った。

1年ぶりの再会である。定刻となり、まず物故した仲間たちの冥福を祈って黙祷を捧げ、行事は次第に進み、そちこちで話はずみ、所定の時



間は瞬く間に過ぎていった。全力で力一杯校歌「赤石山」を熱唱した。来年の当番幹事を紹介して閉会となった。

来年もまた元気で会うことを誓い合ってアルカディアを後とした。

土手の桜が早くも散り始めていた。ありがとう四七期の仲間たちよ、我等が飯中四七期に栄光あれ。

(米山和夫記)

■中48・高2回

中48・高2回の同期会は毎年「春は東京、秋は飯田」と長年続けております。

●今年の出欠返信はがきに「リニアに乗る目標を密かに持っている…〇×」を加えたところ、返信数81中26人が〇に印をつけて来た。2027年の同期会が楽しみなり。●「ふるさとのうまい酒の味を知らずにあの世へ行ってはつまらんに」と喜久水の大吟醸酒「翠嶂」を取り寄せた。「初めて」という人が多く素直に喜んでもらえた。欠席者の中には「1万円もする上等な酒は晩酌には飲めんから出席でさんのが残念」とお値段も味も知っている嬉しい反響もあったから、「毎年の定番に」と当番幹事に引継がれるだろう。●当時の史実を収録する『中学校が軍需工場になった』文集は「母校がなぜ学校工場

になったのか、当時の背景・資料を加えた意義ある一冊となること、上梓は今年10月予定」などを報告。●2次会は同じ会場の一隅に設けたテーブルに、毎年同日開催の中47同期会後の先輩方も加わり、昭和20年母校校舎が軍需工場になったとき先輩後輩もなく槌を振るいやスリをかけた頃の昔話が弾んだ。同窓生の皆さんにもご購入いただける値打ちある大作です。頒布ご支援をよろしくお願いします。(当番幹事・林健久、平野雅人、松田翔(松本敬司記)

■高4回

第49回二七会は例年通り5月の第三土曜日(19日)午後1時から新宿三平で開催した。昨年の参加人員が52名だったことから今年は45名位?かと会場を準備していたが、正

午頃から続々参集、定刻には50名を突破して幹事を慌てさせる嬉しい一幕もあった。結局は昨年と同数で年相応の元気な顔が勢揃いした。

遠くは福島県の林節夫君、飯田の平澤秀明君・山田博章君・福澤保實君、諏訪の三浦賢司君、大月の小島麗逸君、三島の片桐康君ら大勢駆けつけた。福沢富夫幹事の簡単な挨拶と会計の報告があった。財政面では向こう10年間は3千円会費で賄える事、また運営については5名の集団体制(福沢富夫、福澤里次、龍口秀夫、棚田容夫、平沢一彦)で長期安定運営を計るゝと宣言した。続いて郷里飯田で開催予定「卒後60周年記念大会・10月3日」の呼び掛けが大会幹事の福澤保實君からなされたときは望郷の念も絡み、みんなしみり聞き入っていた。平沢信夫君の乾杯の音頭で酒宴に入ったが、「早く飲ま

せる!」という元気のいい御仁もあちこちにおいてビールだ酒だ焼酎だウイスキーだーと酌み交わす酒量は若者もビツクリ!解放感に沸いていた。

最後はお決まりの校歌斉唱をしながら、蛮声を張り上げ、若き血潮を燃やしたあの頃に想いを馳せているのか?それとも来し方顧みて、我々は本当に良き時代を通り過ぎて来た安ど感なのか? 愉快な歌声は喧騒の街に響いてきた!

来年は二七会の50回大会であり、人生も傘寿(認め難いが!)で区切りの歳でもある。今から撰生して、元気に集まろうぜ! (福澤里次記)

■高6回

今年の在京懇親会は「喜寿記念」として、所在が確認されている275名全員に案内することにした。とは言え、

例年実績は45名前後、その差を「文集」で埋めることにした。案内の返状に喜寿の所感、近況を2000字で求めた。7年前、卒業50周年の同期会の折に記念誌を発行したが、それには及ばずとも皆の今を交感し合えればよいと考えて、短く「忙しくて」、あるいは「夫の介護で欠席」とだけあっても載せて、『喜寿記念消息文集』と名付けて送付した。礼状に「わずか数字の文の中に大変な人生が見え隠れして身につまされる」、「夢中で目を通し、感慨無量」などとあつた。

同期会出席者は40名、3分の1は飯伊からやってきてくれた。全員がそれぞれ近況報告、杉木夜詩美作詩の「若いふたり」、岩崎清美作詩「信濃飯田町」を合唱、懇談で同期の想いを深めた。

月例の三水会は励行を継続、年次会とは逆に顔ぶれが

増え、ゴルフも旅行も盛んである。7回目となる「三水会ふるさとめぐり」は、海野宿、別所などを経て、白骨温泉に至り、我々にとっては、故北原謙司先生（愛称ミケサ）が中里介山氏に出会った宿で一泊。その後、乗鞍、上高地を巡った。6月にしては2日間とも好天に恵まれ、飯伊在住者も参加して40名余の賑わいとなった。（藤本義久記）

■高8回

6月1日（金）36回目の八松会（高8の会）をNHKの青山荘で開催しました。

出席者は33名（女性4名）。飲み放題の愉快な会になりました。

冒頭は黙祷です。

羽場良和君の進行で、会計報告、監査報告など簡潔に進み、飛田明美（旧姓野原）さんの朗読が始まりました。欠

席者53名のほとんどの方が近況を書いてくれました。

毎日悠々自適の羨ましい報告や、元気でいますと簡潔に書いてくださった方など明るい便りも多いのですが、体調不良とだけ書いてくださった方もいます。

具体的に病状や治療中の状況、回復状況、心境などまで細かく書いてくださった方々も多く、そのすべてを丁寧に朗読してくれました。

出席者からは、エッ、ほんど…、知らなかった、などの眩しが聞こえました。

乾杯は、久しぶりに出席の平栗哲夫君です。

特殊塗料メーカーとして、国内からインド、タイ、ベトナム、中国、韓国などへ事業展開され高い利益額を計上し続けている現役の経営トップです。

歓談が続く中、森田忠良君から「ハーモニカを吹いても



「やかなあ」と手が上がり、「やってくれ…やってくれ」の歓声。「それじゃ一曲」で急に会場が静まり、演奏が終わると「アンコールだよ」。時はさっさと過ぎて、秦初搏君の応援歌、校歌の順番になりました。

歌い終わると、中田加津三君が「これで閉会です」とあっさり締められました。

■高9回

高9回首都圏同期会は7月5日午後1時からアルカディア市ヶ谷で開催した。例年は10月開催であったが、この「稲穂」へ記事を掲載するため今年は7月開催に変更したが、

女性5名を含む30名が参加した。

今年は市内出身者が幹事となり企画を検討、会員の中から4人の画家がいることから「絵画4人展」を同時開催した。

富永幸溢君の司会で進行、長野から参加した荒井綾君の乾杯で懇親会となり会話が弾む中、飯田から参加の片桐晴夫君から母校の現況報告が行われた。

絵画4人展は全員美術班出身者で萩元厚生君は当時の班長として水彩スケッチを、鎌田利定君は都内で個展を開くなど独自の活動で水彩画を、平沢秀男君は三軌会に、原俊夫君は太平洋美術会に所属し、毎年国立新美術館に出品する常連で油絵を展示、それぞれが持ち寄った作品を鑑賞した後、制作者の解説と批評会を行って暫し芸術の世界に浸った。

近況報告の後、ラグビー班OBの岡嶋港君からは昨年の花園の報告と更なる支援のお願いがあった。

当会には詩吟と尺八の師範があり、酒井繁行君が石川啄木の短歌「東海の……」を朗々と吟詠、中川雄之助君と幹事の石川捷敏が箏曲「みだれ」に合わせ尺八を演奏、また中川君の「アメージング・グレース」の素晴らしい音色は満場の喝采を博した。

そろそろ後期高齢期に突入する我々世代にとっては、健康で充実した人生を送ることが何より大切と再確認した同期会だった。(石川捷敏記)

■高10回

平成24年度の高校10期卒(十高会)の在京同窓会「十松会」を、4月14日、東京南青山会館に於いて開催。今年は、来年迎える卒業55周年の



十高会の総会を東京で開催したいとの十高会本部の意向もあり、会長の中島信行氏、飯田高校同窓会副会長の木下俊佐氏等を迎えて、賑やかに開催した。毎年初参加者があり、ありし日の飯田高松高校時代の日々を心を馳せた。乾杯前の恒例の小講演は、EF組幹事からの勧めもあり、田中節山が「古代人の文字に寄せた思い」について、図版を見ながら解説をした。

乾杯の後、懇談に移るも、

次々と座を移動しながらあつという間の3時間。余興で、校歌、応援歌を熱唱。参加者35名。若き日そのままの心の高まりを、来年に向けて謳歌した。

来年の十高会東京大会は、G日I組が幹事を代表し、十松会が大いに協力することを誓い合った。(田中節山記)

■高14回

卒50周年記念パーティー

昨年9月23日、飯田で卒業50周年記念式典があり、東京支部から約40名が参加しました。そのパーティーの席で、私たちが古希を迎える来年、東京支部で「古希の会」を開いてほしいと依頼されました。

恒例の忘年会

昨年11月29日、例年のように松下博、中島信君たちの尽力で、銀座4丁目がんどで忘



年会を開きました。飯田から矢澤英峰、成瀬功、蒲祐正君が参加して下さいました。同期の殆どが定年して悠々自適な生活に入り、絵画、お札所めぐり、ゴルフ、野菜作り、ボランティア活動などを楽しんでるようです。出席者は40名でした。

古希の会の準備
去る6月2日、レストランアラスカ吾妻橋店に都合がついた11名が集まり、飯田のメンバーから依頼された「古希

の会」の開催が果たして可能か、可能とすればどのようなことが課題になるかの意見交換をしました。東京で開催する条件として、飯田の人たちが40〜50名上京できるかどうかが大切だろうという意見が出ました。そして、開くとしたら来秋、3三連休を避けて設定しようという話になりました。時期、イベントなどについて飯田の意見をよく聞いたうえで、近日中に準備会の発足を検討したいと思っています。(林 泰記)

■高16回

5泊6日で一六会メンバー5人で5月下旬にベトナムへ。北・中部・南と、おのほりさんの典型的な旅。印象。感想を要約すると、
一衣：アオザイをはじめとして、なにしろ良い。シヨッピーング好きにはたまらない。



二食：中高年の日本人向き。ベトナム料理に加え、中華・フランス風の料理も。もつとも高級店ばかりだったが。
三住（建物）：世界遺産が多く、宮殿・墓・ホイアン旧市街と見あきない。
残念だったのは、ハロン湾クルーズが雨だったこと。次回は、1泊2日のクルーズを。道路の交通事情は3Sがそろっている。スリル・スピード・サスペンスが。

帰着して家族に早速「ジ

ジと12月にでもゆこうぜ、安近短で現地の人はまだスレていないし」と報告。
(奥村方敏記)

■高17回

E・F組を中心に横浜にて4月21日(土)、22日(日)「飯田赤石会」が開催されました。初日は、横浜そごうの「からくり時計」前に14時30分集合。シーバスで港内を巡り、宿泊先のホテルへ寄った後、巡回バス「あかいくつ」で「港の見える丘公園」へ。山手111番館等各種西洋館、外国人墓地さらに元町、中華街を散策の後、酒家で懇親会、二次会のカラオケと続いた。2日目は、先ず横浜開港記念会館見学、さらにA、Bコースに分かれ、Aコースはキリンビール工場見学、Bコースはみなと未来21(ランドマークタワーなど)周辺を見学し、



午後4時過ぎに解散となりました。
 幹事の萩元君（E）、下平君（F）ほかのご苦勞により、参加者数は、他の組からの仲間、飯田を始め大阪、名古屋等遠方からの方々を含め30余名となり、実質的には同期会に匹敵する規模。今後、参加者のさらなる増加が期待されます。なお、本部の17回生代表の宮澤君も出席し、来年6月の本部同窓会を東京のアルカディアで開催するに当

たり、幹事役の17回生には宜しくご協力を願うとの挨拶があった。盛大な本部同窓会になるようわれわれも全面的に支援協力したい。

この他、同期の活躍としては、兼ねてから、坂牧君や高橋（旧宮澤）さん、新保（旧齋藤）さんらが参加して準備していた合唱劇「カネット」の東京公演が、3月31日（土）、4月1日（日）の両日にわたり、立川市市民会館で大勢の熱気の中で催された。また、三島君の長野県カルチャーセンター文書講座での活躍の様子、郷土の生んだ女性勤王家松尾多勢子の生誕200周年に寄せて生涯と和歌に関すること、東北大震災・福島原発事故に係わる復旧の問題などについて意見や感想の交換が盛んに行われました。

（協坂英文記）

■高18回

6月2日（土）、毎年恒例の一八会は、出席者51名のもとに、追手町の三宜亭本館にて開催されました。

長年、事務局長としてお世話くださった原屋公久君の司会により、平岩幹夫くんの開会の辞、矢澤章弘くんの会長あいさつ、原田久巳君の会計報告、伊坪弘年君の会計監査報告と、所定の行事のあと、同窓会副会長の福澤小奈美さんから次の伝達がありました。

「再来年（26年）の同窓会の幹事学年は私たち高18回です。最高の出席者数を期待します。特に在京の皆様、よろしくお願いいたします」。この力強いメッセージに、福澤さんが競歩大会・女子の部・第1位の人であることを思い浮かべたのは、小生だけであったか。温かなノスタルジーに酔いしれる同期会であ

りました。（山田治和記）

■高22回

二二会の全員が還暦を迎えたらお祝いの旅行をしようという企画が何年前前からありました。そして、今年6月16・17日にその旅行が実現しました。



集合場
 所は焼津
 グランド
 ホテル。
 飯田からはトラビスジャパンの花バスにて到着、東京・名古屋方面からは三々五々、総勢73名が集合し、まずは温

泉を堪能。その後の宴会は延々深夜まで尽きることはない話題で盛り上がりました。翌日は、焼津さかなセンターで買い物をした後、大井川鉄道に乗りしました。石炭の香りと汽笛の音が懐かしさを増幅させ、子どもの頃の記憶を辿ることになりました。

同期会を長く継続している、時々新たな顔が登場します。そして、同郷で育った同年の仲間が心を割って話し合えるかけがえのない場所となります。今回のキャッチフレーズは、「また会える楽しみ、そして喜び」でした。正にそんな会となり、次回を楽しみに、心を残して日常生活へと戻ったのです。飯田の幹事の皆様に感謝します！

次は、2年後に東京で会おうということになっていきます。関東郷友会nd22の出番です。

(三ツ橋史緒子記)

■高23回

「ニイサンカイ」が今年も新宿3丁目の中華料理屋（随園別館）で6月2日に行われ28人も参加があり、今まででもっとも多い仲間が集まってくれました。ところで「ニイサンカイ」の名前の由来は飯田高校23回生から持ってきています。我々が卒業したのは昭和46年（1971年）3月



すでに会社の定年があった者、もう少し現役で頑張る者や主婦業もひと段落した者など色々ですが、これを一つの区切りとしてこれからの人生を悔いなく楽しく生きていきたいらと思っっています。残念ながら病に倒れ亡くなってしまった友達の分までも長生きし、いつまでも「ニイサンカイ」を続けていけたらと思っています。

さて今年も飯田でも還暦の祝いとして「42周年還暦同窓会」が開かれます。

時期…平成24年11月3日(土)
場所・時間…シルクホテル・17時から受付 (原泰氣記)

■高25回

平成22年度在京飯田高校同窓会の年度幹事となり、我ら在京25回生の集いがスタート。当日は、40名以上の同期が参加し、会を大いに盛り上



げることができた。23、24年は新宿三平で30名以上参加し、旧交を温めた。在京25回生は女性陣の力で盛り上がりつつある。今後、11月10日の総会に在京同期会を当て、11月17日の飯田で行われる卒業40周年25回生同窓会にも参加することを確認した。なお、在京25回生の会名「富嶽」とは楽しいことをたくさん増やしましょうという願いを込めて命名した。(前澤義行記)

■高26回

風夢の会が、2月4日於マリエール飯田（定例会）、2月25日於新宿美祿亭（新年会）開催され、各々30余名、10名が参加し懐かしい話や理屈っぽい話に花が咲いた。

会としての起こりは、卒業26周年に遡る。卒業25周年記念行事に集まり、『あんまりよかつたもんで、来年もやらまいか』と集まった26回生・



26周年（フムフム）の会に、「風夢」の字を当て、以降毎年この会が開催されている。風夢の会はずっと飯田開

催であったが平成20年に有志幹事により新宿開催を行った。

便利になったとは言え、首都圏と飯田は気軽に参加するにはまだ遠いので、翌年在京版風夢の会がスタートした。毎年飯田（本会）、東京（支部）別の日に設定され、どちらに出席しても大歓迎である。昨年は、在京飯田高校同窓会総会の幹事学年に

当たり、この会のネットワークが準備に、本番に大いに力を発揮してくれた。ふるさとの今を良く知る仲間によるパネルディスカッションの企画である。折しも、大震災が我々に巨大技術の再考や真の豊かさとは何かを問いかける中、自然に囲まれ、等身大の郷土の生活が実は豊かなものであり、誇りに思われた方も多かったのではないだろうか。総会終了後の風夢の会は打上げを

兼ね大変盛り上った。

風夢の会は、定例会の他、気軽に集まれる場（飯田は毎月26日、東京は不定期）を提供している。加えて今年には南アルプス登山をめざす行事も動き始め、風越山予備登山も実施された（4月29日）。

飯田本会と連絡を密に、今後も首都圏での活動が続く。第2の人生を意識する年齢となり、それを益々充実したものとするため、仲間同士相互扶助できればと願う。

（篠田裕二記）

本部同窓会定期総会を来年六月に東京で開催

西村清一（在京飯田高校同窓会長）

本年二月に本部同窓会より、平成二十五年定期総会を東京で開催したい旨の申し入れがあり、二度の臨時役員会を開催し、東京での開催に同意し協力することを決定しました。

と連携を図り、定期総会開催に協力する予定です。

いずれ、在京飯田高校同窓会会員の皆様にもご案内いたしますが、本部同窓会の東京開催にご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

今後は具体的な開催準備を行う幹事学年の高17回生